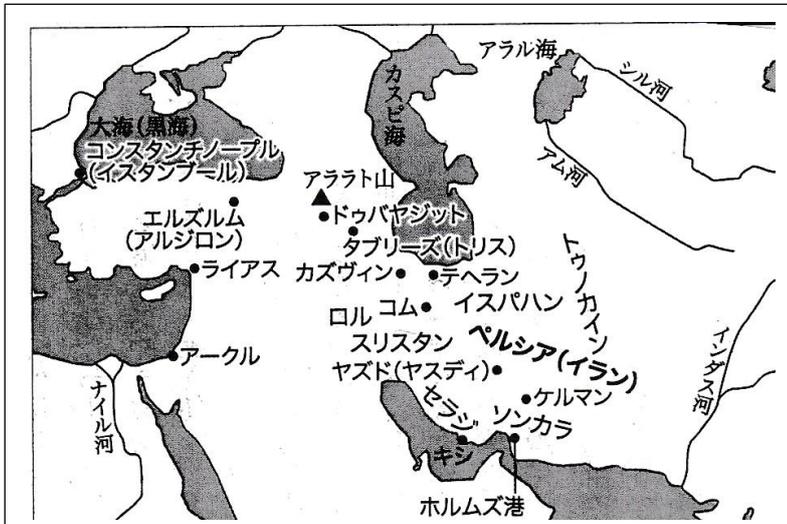


マルコポーロ「東方見聞録」その2

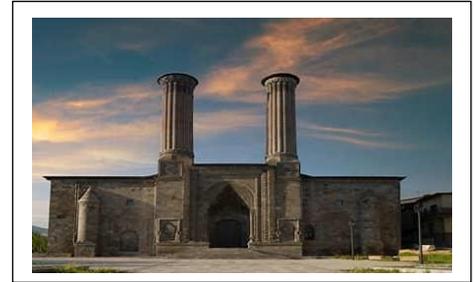
トルコからパミールまで

八柳 修之

ライアスからニコロたち3人と2人の大司教は東方に向けて出発したが、途中でキリスト教徒であればうち殺してしまうという噂があり、2人の大司教は恐れをなしてローマ教皇の手紙や贈り物をすべてニコロたちに渡して逃げ帰ってしまった。出発点のライアスは、当時、重要な貿易が盛んな町であった。



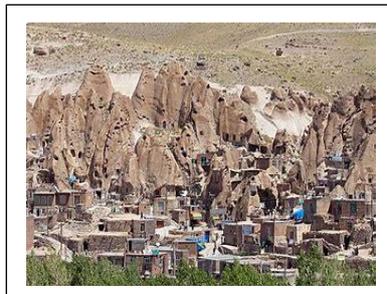
一行はエルズルムに向かい、そこからアララト山の麓を通って、イルハーン国のタブリーズ（トリス）に着く。



エルズルム：黒海とイランを結ぶ交易路の中継地、シルクロードの途上。

現在人口は約 34 万人

コンスタンティノープル（イスタンブール）からエルムズを経て、タブリーズ（トリス）に至る道はシルクロードで最も重要な道であった。現在はアジアハイウェイと呼ばれ、中東の国々を横断する高速道路が走っている。

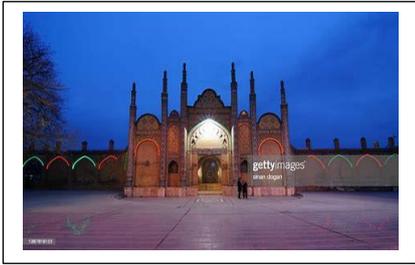


アララト山 トルコ最高峰、標高：5,115m 頂上にノアの箱舟が止まったといわれる。

タブリーズ（トリス）。イルハーン国の首都。現在人口約 140 万人。世界のあらゆる地方から多くの商品が集まり、ラテン商人、とくにジェノヴァ人がここに集まる商品を買いにやって来た。マルコはタブリーズのイスラム教徒はとても人が悪く信用できないと述べている。トリスの町からペルシャ国まで 12 日行程の距離がある。

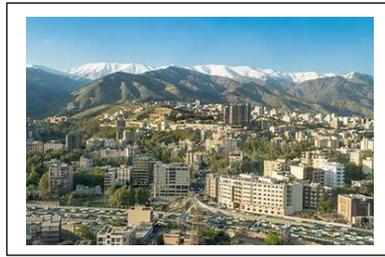
マルコは、「ペルシャ国はとても広大な国で、その中に八つの王国が含まれている。これらの諸国にはいずれも立派な馬が沢山おり、莫大な数がインドに向けて輸出される。また世界でも最良なロバがおり非常に速く走る上、並足も見事なので一頭、銀 30 マルクもする。ペルシャの諸都市には沢山の商人や職人がおり、色々な絹布、金糸織りが大量に作られ、商売や手工業を生業としている」と述べている。

マルコはタブリーズからカズヴィン、テヘラン、コム、イSPAハンを経て砂漠中を東進しヤズドに至ったと思われる。ヤズドの辺りはイランの中でも最も砂の深い砂漠で、この辺りには今も拝火教（ゾロアスター教）徒がおり、鳥葬の塔がある。ヤズドを過ぎ、7日間平原を横断、ケルマンに着いた。



カズヴィン

カズヴィン：テヘランの北西 150 km、海拔 1800m、ペルシャ帝国の歴史上重要な都市。2000 以上の考古学遺跡がある。2005 年、人口 33 万人



テヘラン

テヘラン：現在、イランの首都、イランの文化的中心。20 世紀～21 世紀にかけてイラン各地から人口流入があり、現在人口は 1,367 万人。住民の大多数はイスラム教シーア派

コム：テヘランの南へ約 120 km。イスラム時代、早い時期からアラブ人の移住が相次ぎ、16 世紀サファヴィー朝によってイマーム派が国教化された。

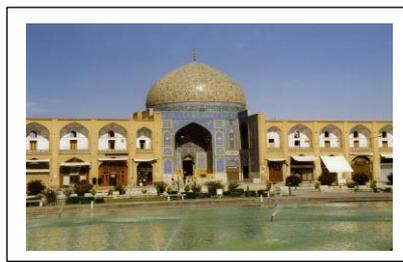


コム



イスパハン

イスパハン：町は 16 世紀以前に建設された。町の住は倨約家、吝嗇として良くも悪くも有名。歴史的、文化的にも必要な町。町の美しさはイランの宝ともいわれる。



ヤズド

ヤズド：ゾロアスター教文化の中心地。人口、2006 年 50 万人。キャヴィール砂漠とルート砂漠の交わる所。標高 1200m。高品質の手工業品、特に絹織物と菓子で知られる。



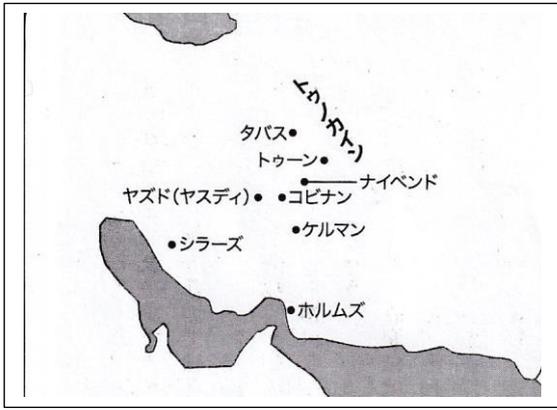
ケルマン

ケルマン：テヘランの東南 1076 km。広大な平原上に位置する。人口：53 万人（2005 年）。ケルマンもペルシアの一王国で、かつては世襲の君主がいたが、タルタル人が征服して以来、王朝は亡くなった。この王国では山からトルコ玉という宝石が産出され非常に豊富。馬具や武器を作り、女たちは色とりどりの絹に見事な刺繍を施し、きらびやかなカーテン、優美な掛布団、クッションなど作っていたとマルコは述べている。ここでマルコ達はケルマンから南へ下り、港町のホルムズに行き、ここから船に乗って元帝国に行こうとした。



ケルマンからさらに 7 日間、平野を馬で行くと大きな山があり、これを越え 2 日間、長い下り坂を下りると、広い平野(レオパール平原)が開けた。ナツメヤシ、リンゴ、ピスタチオなど豊か。山賊の侵入を防ぐため高い城壁で囲まれていた。マルコ達も襲われたが無事だった。レオパール平原を南に 5 日間下るとホルムズ平野、さらに 2 日で大海に出た。ホルムズという都市があり海港があった。ホルムズ港にはインドからの商人達が色々な商品を持って船でやって来ていた。ここは重要な国際商業都市であった。ここから中国まで船で行くつもりであったが、あまりにも船がお粗末で難破する危険もあったので断念、ケルマンに引き返すことにした。

ケルマンに帰り、ここからイランの大砂漠を越えて東方に向かうことにした。ケルマンから北へ進み、3 日間、水が全くない砂漠。4 日目にやっと水がきれいな川があった。さらに 3 日間、不毛の砂漠を越えてコビナンという砂漠の町に着いた。鉄鉱石が採れる。ケルマンの北方約 150 km。



ナイベンド



タバス周辺

コビナンからはまた、樹木も果実もない乾燥の激しい砂漠。実査した長沢等は四輪駆動車で8日間かかりトゥノカイン地方に着いた。(コビナン～タバス間は約240km、コビナン～ナイベント間は約330kmと実査した長沢は述べている)トゥノカイン地方はペルシアの北辺にあり、暑くも寒くもなく快適な気候で良質な諸物資に恵まれている。住民はイスラム教徒で顔かたちがよく、ことに婦人はきわめて美しい。

マルコたちはトゥノカインからさらに東へ進みサプルガンに着いた。ここに行く途中、イラン側、アフガン側では大きな町があったが、マルコは記していない。サプルガンは世界一美味しいメロンの産地。この町で1978年ロシア・アフガン合同調査隊が、総数2万点に及ぶ金銀器等を発見した。次にバルクという都市にやって来た。バルクは立派な都市であるが、タルタル人に破壊されて廃墟となっていた。アレキサンダー大王がダリウスの娘と結婚したのもこの町とのことで、アレキサンダー大王の支配がこの地にまで及んでいた。バルクから12日間、マルコ等は東に向かいタイカンに着いた。タイカンは穀物の集散地であり、まわりの山々から塩が産出されていた。(何しろ13世紀のことであり、消滅した町も多く地図にもなく画像もない)

マルコ等は、さらに東へ進み、3日後、バラシャンに着いた。この国の山からはルビー、ラピスラズリほかさまざまな宝石が出る。ここに来て、しばらくするとマルコは病気にかかり一年近くも床についてしまった。バラシャンに1年近く滞在したのち、大きな河に沿って東と北東の方向に12日間旅を続け、ワハンに着いた。ワハンは中国からアフガニスタン、パキスタン方面に行くには、必ず通らなければならぬ高原の道であった。この平原はパミール高原と呼ばれ、これを横断するには馬で12日間かかる。人家もなく、一羽の鳥も飛ばず、草も生えていないところで、たっぷり糧秣を持っていかなければならなかった。パミール高原の平均高度は4000mを超し、寒さのためいくら火を燃やしても赤々と燃えず、あまり熱くならず、食物もうまく煮えなかった。高原を越えた一行の前には40日もかかる山越えの道が再び続いた。ペロールに住んでいる人間は非常に野性的で、生業は狩猟だけでもっぱら動物の皮を着物にしている。(その2完)



パミール高原

